

1. 視察のご報告

場所 Good job!センター香芝
奈良県香芝市下田西2-8-1
事業形態…生活介護(14名)・就労B(10名)
就労A(10名)就労移行(6名)



日時 2018年3月12日(月) 10:00~14:00

メンバー 飯塚(あおぞら園)・服部(あおぞら園)・尼子(時のわらし)
松田(時のわらし)・川田(ぼれっと)・青木(ブレッジ)
北代(あくと)・室本(ぼっち) 計8名

目的 ユニバーサル拠点事業や共生社会へのヒントに。
視察先選定の理由…全国的にも先駆的な取り組みを
しており、障害のある人とともに社会にある課題につ
いて(理解/仕事/機会/支援者の問題…)数々の新しい切り口
で推し開いている法人・事業所であるから。

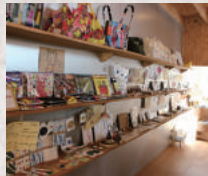
費用 見学期料…16,000円(8名分) 交通費(高速代・ガソリン代)…10,888円(2台分)

資料 Good job!センターのみどころ・パンフレット/たんぼほの家のご案内



Good job!センター(奈良 香芝)

セレクトショップ
全国の福祉施設、障害のある作家、センターにて制作されたグッズを販売。



委託手数料…30%
買取手数料…40%



GoodJob! Center
KASHIBA

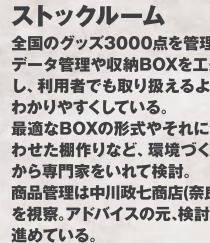
た
み
く
ど
さ
こ
ろ
が



工房
3Dプリンター・レーザーカッター
高性能ミシンなどの最新機器
を使ってオリジナルグッズを
制作。利用者の特技・能力・希望
に沿って作業工程や役割を作る。
地域(行政)のイベントとタイ
アップしたり、地域に根差した商
品企画も行っている。
例) 相模グッズ(香芝=相模野羊の地)
例) 中川政七商店とのコラボ張り



カフェ
「店員さん」は利用者にも人気
のお仕事。接客の他コーヒー
豆の仕分けやPOPもお仕事の
1つ。フードコーディネー
ターとコラボして開発された
ホットドッグが看板メニュー。
グッズ展開もされている。



ストックルーム
全国のグッズ3000点を管理。
データ管理や収納BOXを工夫し、
利用者でも取り扱えるよう
わかりやすくしている。
最適なBOXの形式やそれに合
わせた棚作りなど、環境づくり
から専門家を入れて検討。
商品管理は中川政七商店(奈良)
を視察。アドバイスの元、検討を
進めている。

他にも…

案内送付作業、POP作り、インスタグラムの投稿、商品の写真撮影、見学者への説明…興味のある利用者にはらせてみて、仕事として取り組んでいただいている。センターの構想段階から、専門家(デザイン、建築、照明デザイン、家具職人…)とスタッフ、利用者が共同。“場所の使われ方”どんな人がどう過ごすのか?を熟考しながら進められた。



利用者の制作した織物を
シェードにしている



カフェの外にはゆっくりと
落ち着ける縁側がある



ショップの棚は組換自由



相模をモチーフにしたグッズ

2. 講演会のご報告

テーマ みんなで考えるユニバーサル啓発講演会
介護福祉士を持つ理容師から学ぶ
～ユニバーサルへの必要な目線、ちょっとした工夫～

場所 明石市生涯学習センター学習室704
明石市東仲ノ町6番1号アスピア明石北館

日時 2018年3月3日(土) 10:00~12:00

内容 第1部「共生社会ホストタウン」について
講師 山田 賢氏(明石市福祉総務課障がい者施策担当課長)
明石市が東京オリンピック・パラリンピックを契機として「心のバリアフリー」を推進するための共生ホストタウンとして登録されたことを紹介される。共生ホストタウンとは何か?ユニバーサルデザインや共生社会の説明、そして明石が「やさしいまちづくり」をめざし取り組む事を伝えられる。



※松本氏よりパネラーから事前に行った「障害当事者の困りごと」発表視覚障害の方より、明石駅西側スクランブル交差点の歩行が困難とのこと、聴覚障害の方からは聞こえないゆえの不便さ、発達障害の方からは言葉で話されると理解しにくいなどの話などが紹介された。



第2部「商圈を広げられる?誰もが利用できる理容店の構築」

講師 福永純一氏(Weathercock-風見鶏-代表)
パワーポイントを使用した講演。自己紹介からユニバーサルデザインの説明、実際の理容店におけるバリアフリー度の紹介があったあと、自身の思いや取り組みの内容の報告をされ、それによる効果や成果についてお話があった。終了後質疑応答を受けていただく。

第3部「講演を聞いて～パネルディスカッション～」 進行 松本将八氏(135Eネット NPO法人 ぐくまくらぶ理事長)

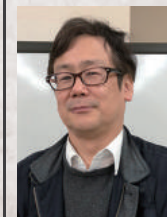
最初の講演準備時間あった「困りごと」の追加のコメントをいただく。最初の説明をさらに詳しく話す方、新規のお話などがある。視覚障害の方のエスコートゾーンや聴覚障害の方の駅の電光掲示板だけでは足りないところなど詳しくお話頂いた。一方で身体障害の方からもあったが、十数年前からすれば、設備的なバリアーは改善してきたが、ソフト面が課題などの話などもある。それには、以前「お手伝い」の声掛けに対して偉そうに断った失敗談なども加わり、心の行き来の必要性の話が加わった。山田氏からは自身が少数派に入れよう考えるかなどのまとめ的なコメントもあった。

その他「グラフィックデザイン」

グラフィッカー やましの氏
大塚先生の紹介で参加、話の内容をアートにされ、見て分かりやすく楽しい物に仕上げられる。



3. オブザーバーのご紹介



国立明石工業
高専専門学校
ユニバーサルデザイン
事業のオブザーバー
大塚 毅彦 教授